

## 中学校 2年生 保健体育科学習指導案

令和 6 年 12 月 13 日  
中学校 (2) 年 20 名

### 1 単元名 「 第4章 傷害の防止 」 ( 交通事故の防止 )

#### 2 単元について

小学校では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻出血などの簡単な手当などを学習している。

ここでは、傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって、傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止することができることを理解できるようにする必要である。また、包帯法や AED (自動体外式除細動器) の使用を含む心肺蘇生法などの応急手当ができるようにする必要である。さらに、危険を予測し、その回避の方法を考え、それらを表現することが必要である。

このため、本内容は、交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因及びその相互の関わりによって発生すること、交通事故などの傷害の多くはこれらの要因に対する適切な対策を行うことによって防止できること、また、自然災害による傷害の多くは災害に備えておくこと、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動すること、災害情報を把握することで防止できること、及び迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止することができることなどの知識及び応急手当の技能と、傷害の防止に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

#### 3 単元の目標

|              |   |
|--------------|---|
| 知識・技能        | 傷害の防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活のかかわりを理解することができるようする         |
| 思考力・判断力・表現力等 | 傷害の防止について課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようする |
| 学びに向かう力・人間性  | 傷害の防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようする                    |

#### 4 生徒の実態と指導観

授業前に聞き取ったところ、生徒 25 人中 20 人が『大好き、好き』と答えた。保健は好きではあるが、交通事故についてなどはどちらかというと苦手である生徒がいる。

ポイントを明確に提示することを大切にした指導を行う。授業に工夫がなければ、保健が得意な生徒の

みが活躍する授業になるため、保健が苦手な生徒にも理解ができるような授業内容を設定していくことなどの工夫をする。

## 5

### 単元及び学習活動に即した評価規準

| 健康安全への知識・技能  | 健康安全についての思考力・判断力・表現力等                         | 健康・安全について、主体的に学習する態度         |
|--|---|------------------------------|
| <p>交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。</li> <li>・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解している。</li> <li>・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けている。</li> </ul> | 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。 | 傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。 |

## 6 指導と評価の計画

| 時間 | 主な学習内容   | 知識 | 思・判・表 | 学び |
|----|--|----|-------|----|
| 1  | 傷害の原因と防止   |    |       |    |
| 2  | 交通事故の現状と原因   |    |       |    |
| 3  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的要因ではどんな対策が必要だろうか。</li> <li>・環境要因ではどんな対策が必要だろうか。</li> <li>・車両要因ではどんな対策が必要だろうか。</li> </ul> |    | ○     |    |
| 4  | 犯罪被害の防止  |    |       |    |
| 5  | 自然災害に備えて   |    |       |    |
| 6  | 応急手当の意義と基本   |    |       |    |

## 7 本時の展開

### ① 本時の目標

- ・交通事故を防止するためには、どんな対策をとればよいのか理解しよう。
- ・交通事故を防止するための対策についての知識を実際の場面で役立てよう

### ② 展開

| 段階                     | 学習活動【学習内容】  | 指導上の留意点 ◇評価  |
|------------------------|---|--|
| <b>導入<br/>8分</b>       | <ul style="list-style-type: none"><li>・挨拶・出席確認・忘れ物確認</li><li>・本時の目標の確認</li><li>・前回の中学生の交通事故の特徴である『無謀な運転やルールを守らないことによる事故が多い』ことを振り返る。</li><li>・教科書 P112 を開き、『課題をつかむ』を見て、どれが正しいのかを考える。</li></ul>   | <ul style="list-style-type: none"><li>○教科書 P112 を開くように指示する。</li><li>○生徒に挙手制で選択肢を聞いて、なぜそれが無謀な運転なのかも生徒に聞く。</li><li>○生徒が出した意見をまとめる。</li></ul>   |
| <b>展開<br/>34<br/>分</b> | <p>【安全な行動と危険予測→人的要因で<br/>どんな対策が必要だろうか】</p> <p>発問 1：自転車事故はどのような場面で起こるのか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・『交通法規』とは何かを個人で考える。<br/>→交通法規とは、道路交通に関する法律や規則全般を指し、運転者や歩行者が守るべきルールを定めているものであることを理解する。</li><li>・危険予測とは何かを理解する。<br/>→危険予測とは、直接目に見える危険【顕在危険】<br/>道路状況(交差点、カーブなど)・交通状況(走行車両、歩行者など)・自然の環境状況(雨、雪など)<br/>直接目に見えない危険【潜在危険】自分の心身の状態(焦り、疲労など)・他者の状態(見落とし、わき見など)・行動の仕方(急発進、急停止など)・死角(駐停車車両、建物や塀など)であることを教科書 P 112 を見ながら理解する。</li><li>・直接目に見える危険【顕在危険】は、</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>○個人で考えさせ、教師が生徒に問いかける。</li><li>○『交通法規』について理解させる。<br/>→道路交通に関する法律・規則の例<br/>一時停止する。信号無視しない。安全確認を行う。これらを生徒に説明する。</li><li>○危険予測とは何かを理解させる。</li><li>○直接目に見える危険→客観的に見える危険・直接目に見えない危険→自分では見えない危険であることを理解させる。</li></ul> |

|  |   |
|--|---|
| <p>目に見えてはっきりわかる危険であること、直接目に見えない危険【潜在危険】は、外からは見えない状態で存在する危険であることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のP112の『考える・調べる』の資料を見て、どんな危険があるかをグループで考え、学習シートに記入する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>予想される生徒の反応：</p> <p>水たまりがあって滑る。おばあちゃんが危ない。歩きスマホをしていてぶつかる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの代表者一人が発表する。</li> <li>『人が飛び出してくるかもしれない』などと予測する、『かもしれない運転』が安全につながることを理解する。</li> <li>事故を防ぐためには、『交通法規』を守って、安全に行動する。『危険予測』をして、危険回避の行動をとることが大切であることを理解する。</li> </ul> <p>【安全な環境づくり→環境要因ではどんな対策が必要だろうか】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習シートに記入させる。</li> <li>○グループを作らせ、グループ内で意見を共有させる。</li> <li>○資料『考える・調べる』をグループごとに配布し、どこが危険なのかをグループで話合わせる。</li> <li>○グループの代表者一人にどんな危険があるかを発表させる。</li> </ul> <p>→教師は、生徒が発表した意見をホワイトボードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒に危険予測をするためには、『かもしれない運転が』大切だということを問答させる。</li> <li>○生徒の意見をまとめる。</li> </ul> |
| <p>発問2：危険回避の行動をとるだけで交通事故は防げるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書P113の資料2の『交通環境の整備の例』を見て、交通事故を防ぐには、交通環境の整備が必要であることを理解する。</li> <li>自転車専用通行帯は、安全である反面危険なことが隠されている、これをグループで考え学習シートに記入し、発表する。</li> <p>→自転車専用通行帯が作られれば、車が通る道幅が狭くなり、自転車と接触する恐れがある。</p> <p>自転車専用通行帯に止まっていた自動</p> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書P113の資料を見るように指示する。</li> <li>○・コミュニティ道路・・・道路をジグザグにさせることで曲がり角で、車の走行速度を抑制させる効果がある。</li> <li>・自転車専用通行帯・・・自転車の安全を確保するとともに、自転車やバイクとの通行位置が明確になり、事故を減らせる。</li> <li>・ゾーン30・・・住宅地域や学校周辺などの生活区域として指定し、その区域内の道路は最高30キロとし、ゾーン内は歩行者や自転車などが優先される。</li> </ul> <p>これ以外にも</p>  |

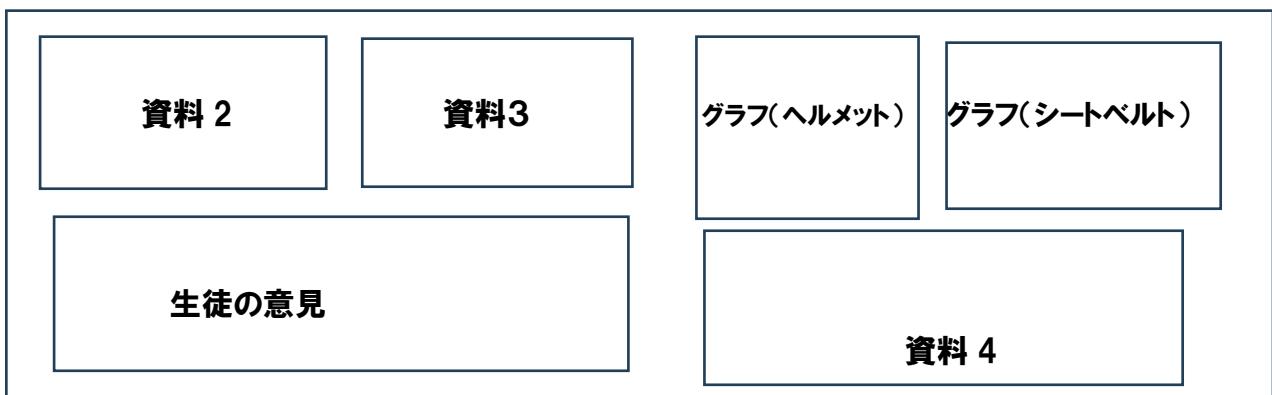
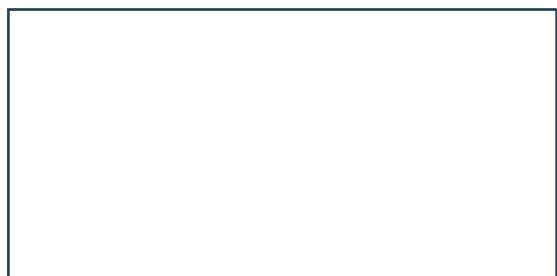
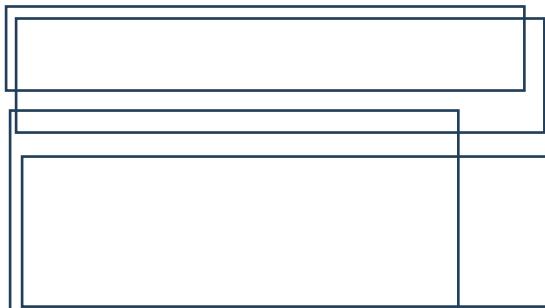
|   |  |
|---|--|
| <p>車に自転車が衝突する。<br/>自転車専用通行帯に止まっていた自動車を避けようとした自転車が、後ろから来た自動車と接触する。</p> <p>【車両の整備と安全装備の使用→車両要因ではどんな対策が必要だろうか】</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンプ・・・道路上に設けた凸部（こぶ状のもの）で、車の速度を30キロメートル以下にし、ドライバーがハンプを事前に認識することで車の速度を抑えて走行するようになる効果がある。海外で多く導入されている。</li> </ul> <p>これらを生徒に説明し、理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ考えさせ、学習シートに記入させる。</li> <li>○教師が生徒を指名し、発表させる。</li> <li>○自転車専用通行帯での危険について理解させる。</li> </ul>   |
| <p>発問3：交通事故を防止するために、今日から何ができるか考える。</p>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で自分が自転車に乗っている時と歩行者の時の防止策考え、学習シートに記入させ、何人か発表する。</li> <li>・自転車に乗るときは、車両の点検・整備、ブレーキ→前後輪ともよく効くかタイヤ→しっかりと空気は入っているか<br/>反射材→汚れていないか、よく見えるか<br/>ライト→点灯するか<br/>サドル→両足先が地面につく高さになっているか<br/>これらを行うことが交通事故を防ぐことにつながるということを教科書P113の資料3『安全装備の使用』を見ながら理解する。</li> <li>・歩行者の時は、歩道を歩き、道路を渡る際は横断歩道を利用すること・信号機がある場合はその表示に従う・ない場合は、安全確認を十分に行うこと理解する。</li> <li>・自転車に乗るときにはヘルメットを着用することで怪我や死亡事故を防げるということを理解する。<br/>→軽傷事故の約12%、重傷事故の約18%、死亡事故の約64%は頭部に損傷を</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で考えさせ、学習シートに記入させる。</li> <li>○教師が生徒を指名し、発表させる。</li> <li>○自転車に乗るとき、車両点検・整備はどんなことをしたらよいかは教科書P113の資料3『安全装備の使用』を用いながら理解させ、歩行者の時に気を付けることを口頭で説明し、理解させる。</li> <li>○自転車に乗るときにはヘルメットを着用することで怪我や死亡事故を防げるということを理解させる。<br/>→現在はヘルメットの着用が努力義務だが、いずれかは義務になることを口頭で説明し、理解させる。</li> <li>○車→昔は高速道路だけの着用だったが、現在は一般道走行時でも着用が義務付けられている。</li> <li>・チャイルドシートは、6歳未満までの義務だが、身長が150センチに達するまでは使用を推奨する。（タクシーは、チャイルドシートの着用は義務付けられていないためなしでも乗車可能。そのため赤ちゃんなど小さい子供が乗車する場合は、大</li> </ul> |

|                         |   |  |
|-------------------------|---|--|
|                         | <p>受けた事故であることを理解し、装着している場合と比較して、装着していない場合の致死率は約2.5倍に高くなることも理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シートベルト未着用の9割以上が車外放出・車内部位衝突である。</li> <li>高速道路で、着用時の約19.8倍</li> <li>一般道路で、着用時の約3.2倍</li> <li>シートベルトを着用することで致死率が大きく変わり、命を守ることに繋がることを理解する。</li> </ul> | <p>人だけシートベルトを着用し、着用した状態で、抱っこひもやスリングなどで優しく抱っこする。車の中でもバスは、シートベルトの着用を促すようなアナウンスが流れたり、運転手による目視確認があったり、事故が多い為、貸し切りバスや高速バスにはシートベルトの着用が義務つけられている。)これらを付け足して、口頭で説明し、理解させる。</p> <p>○生徒が出した意見をまとめる。</p> <p>◆交通事故は、自分の心身の状態、道路状況、天気に左右されてしまうことについて理解する。</p> <p>『A評価とするポイント』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を踏まえて、自分に適した対策を考え、積極的に話すことができている。</li> </ul> <p>『C評価とするポイント』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を踏まえて、自分の身に起きる可能性があることを理解していないため、積極的に発言ができない。</li> </ul> <p>【努力を要する生徒への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒へ、自分が交通事故を引き起こす原因を作っていないかを振り返ってもらい、その中で、どのような対策をしていたら、今後自分自身が生活していくうえで、交通事故の防止につながる可能性があるかを考えてもらうように個人指導を行う。</li> </ul> |
| <b>まとめ</b><br><b>8分</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>本日の授業のまとめを学習シートに記入する。</li> <li>自分が被害者、加害者にならないように交通ルールを守って行動するということを理解する。</li> </ul>   | <p>○学習シートに記入させる。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p> <p>○自転車安全利用五則のポスターを見せる。</p> <p>○被害者にならないためには歩行者の時は道路へ飛び出さない・一度止まるなど、加害者にならないためには、歩行者優先・安全確認をするなどを口頭で生徒に伝え、理解させる。</p>  |

## 8 板書計画

12月13日 交通事故の防止

### 本時の目標



## 9 資料

- ・教科書
- ・教科書 P112 の『考える、調べる』の写真1枚(資料1)

(資料2)



(資料3)



(資料4)

## △自転車はルールを守って安全運転△

